

今までこの詩を辞世の句だというとならえ方が定説のようになっている。ところが、太宰府謫居中に詠まれた作品の注釈を施す作業を続けるなかで、この巻尾に置かれている「謫居春雪」は本当は辞世の詩ではないのではないかという疑問が生じて来た。本稿でその疑問に対する筆者の見解を提起し、更には太宰府の地より、盟友紀長谷雄に託した『菅家後集』の編纂事情の一端を考察した。

第三部 〔資料編〕(一)

〔「敘意一百韻」(『菅家後集』)全注釈〕 焼山廣志監修 道真梅の会(大牟田市民大学ゼミ)編

第四部 〔資料編〕(二)

〔初出論文一覧〕

〔『菅家後集』【注釈】関連論文一覧〕

本文考察に挙げる作品群は、以下の「凡例」にならう。